

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社キョクトー新工場	階数	地上2階 地下1階
建設地	愛知県日進市	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	70 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,086 時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年2月 予定	評価の実施日	2016年4月1日
敷地面積	2,995 m <sup>2</sup>	作成者	伴 尚憲
建築面積	1,515 m <sup>2</sup>	確認日	2016年4月1日
延床面積	2,461 m <sup>2</sup>	確認者	伴 尚憲

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

3.0 1.5 BEE=1.0

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 79%

③上記+②以外の 79%

④上記+ 79%

0 46 92 138

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

**LR 環境負荷低減性** **LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">4.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$  × 100

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$  × 100

みんなの環境活動を応援しています  
モリブー ちんぽ

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音				3.0	0.15		-	3.0
1.2 遮音				3.0	0.40		-	3.0
1 開口部遮音性能				3.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20		-	
1.3 吸音				3.0	0.20		-	
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御				2.6	0.35		-	2.6
1 室温				3.0	0.50		-	
2 外皮性能				3.0	0.38		-	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.25		-	
2.2 湿度制御				3.0	0.38		-	
2.3 空調方式				1.0	0.20		-	
				3.0	0.30		-	
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用				3.7	0.25		-	3.7
1 昼光率		昼光率 ≤ 2.5%		4.6	0.30		-	
2 方位別開口				5.0	0.60		-	
3 昼光利用設備		昼光利用設備の設置		4.0	0.40		-	
3.2 グレア対策				4.0	0.30		-	
1 昼光制御		庇の設置		4.0	1.00		-	
3.3 照度				3.0	0.15		-	
3.4 照明制御				3.0	0.25		-	
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策				3.0	0.25		-	3.0
1 化学汚染物質				3.0	0.50		-	
4.2 換気				3.0	1.00		-	
1 換気量				3.0	0.30		-	
2 自然換気性能				3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33		-	
4.3 運用管理				3.0	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御				3.0	0.50		-	
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ				-	0.30		-	3.2
1 広さ・収納性				3.3	0.40		-	3.3
2 高度情報通信設備対応		コンセント40V/A/m <sup>2</sup> 以上		3.3	0.40		-	
3 バリアフリー計画	独自			3.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30		-	
1 広さ感・景観				3.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース、自動販売機の設置		5.0	0.33		-	
3 内装計画				3.0	0.33		-	
1.3 維持管理				3.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震				2.9	0.31		-	2.9
1 耐震性				3.0	0.48		-	
2 免震・制振性能				3.0	0.80		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20		-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.33		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			3.0	0.23		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23		-	
2.4 信頼性				2.6	0.19		-	
1 空調・換気設備				1.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20		-	
3 電気設備	②			3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-	
<b>3 対応性・更新性</b>								
3.1 空間のゆとり				3.4	0.29		-	3.4
1 階高のゆとり		階高3.8m		3.6	0.31		-	
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.60		-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.40		-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.31		-	
1 空調配管の更新性	②			3.6	0.38		-	
2 給排水管の更新性				2.0	0.17		-	
3 電気配線の更新性		構造部材を痛めることなく修繕、更新が可能		4.0	0.17		-	
4 通信配線の更新性		構造材、仕上げ材を痛めずに修繕、更新が可能		5.0	0.11		-	
5 設備機器の更新性		仕上げ材を痛めずに修繕、更新が可能		5.0	0.11		-	
6 バックアップスペースの確保		修繕、更新時に建物機能の維持が可能		4.0	0.22		-	
				3.0	0.22		-	

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						-	0.37
1 生物環境の保全と創出	独自③			3.0	0.30		-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			2.0	0.40		-	2.0	
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.5	0.30		-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50		-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-		
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	3.2	
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	3.6	
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI <sub>m</sub> =0.74		3.0	0.08		-	3.0	
2 自然エネルギー利用		自然採光システムの計画		4.0	0.26		-	4.0	
<b>3 設備システムの高効率化</b>				4.0	0.39		-	4.0	
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI値=0.90		4.0	1.00		-		
集合住宅の評価(3c)							-		
<b>4 効率的運用</b>				3.0	0.26		-	3.0	
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-		
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-		
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-		
集合住宅の評価							-		
4.1 モニタリング							-		
4.2 運用管理体制							-		
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	3.1	
<b>1 水資源保護</b>				3.0	0.15		-	3.0	
<b>1.1 節水</b>				3.0	0.40		-		
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				3.0	0.60		-		
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-		
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-		
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				3.1	0.63		-	3.1	
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05		-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	② 独自		仕上材に自然素材を用いている	4.0	0.24		-		
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				3.0	0.22		-	3.0	
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>				3.0	0.32		-		
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				3.0	0.68		-		
1 消火剤				-	-		-		
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	1.00		-		
3 冷媒				-	-		-		
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	2.9	
<b>1 地球温暖化への配慮</b>				①	ライフサイクルCO2概算値:79%	3.8	0.33	-	3.8
<b>2 地域環境への配慮</b>				2.3	0.33		-	2.3	
<b>2.1 大気汚染防止</b>				-	-		-		
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				2.0	0.67		-		
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				3.0	0.33		-		
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-		
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-		
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.25		-		
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25		-		
<b>3 周辺環境への配慮</b>				2.7	0.33		-	2.7	
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				3.0	0.40		-		
1 騒音	独自			3.0	0.33		-		
2 振動	独自			3.0	0.33		-		
3 悪臭				3.0	0.33		-		
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				3.0	0.40		-		
1 風害の抑制				3.0	0.70		-		
2 砂塵の抑制							-		
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-		
<b>3.3 光害の抑制</b>				1.6	0.20		-		
1 屋外照明及び屋内照明の立ち上り光への対策				1.0	0.70		-		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-		

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.1</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.11	外構緑化:4.8%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	機能性と使いやすさに配慮した室内空間とし、環境負荷の少ない建物となるよう配慮した。
Q1 室内環境	遮音、吸音性能共に標準的な性能をそなえ、工場部分の音、事務所部分の音が双方はもちろん、外部にも影響を与えないように配慮している。
Q2 サービス性能	十分な広さ、階高、天井高とし、リフレッシュスペースを設置するなどして機能性が高く、使いやすい空間となるよう配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	各項目ともCASBEEあいちでの評価基準のレベル3以上の仕様となるよう配慮している。
LR1 エネルギー	エントランスホールにはトップライトを設け、照明の必要量を補い、省エネルギー化を実現するための配慮をしている。
LR2 資源・マテリアル	集成材、タイル、ボード、ビニル床材などグリーン調達品目、エコマーク取得済み品を使用するよう配慮している。
LR3 敷地外環境	各項目ともCASBEEあいちでの評価基準のレベル3以上の仕様となるよう配慮している。
その他	